

「日航機事故遺族の 悲しみに時効ない」

東京福祉大で田口教授

1985年の日航ジャンボ機墜落事故の犠牲者と遺族らの悲しみを歌った混声合唱組曲「御巢鷹山に祈る」の作曲家で、東京福祉大教授の田口雅夫さん(68)＝東京都＝が11日、伊勢崎市の同大キャンパスで事故をテーマに授業し、学生約20人

に「事故を風化させまいとする気持ちを一人でも多くの人に共有してほしい」と呼び掛けた。田口さんは事故現場や多くのひつぎが並ぶ体育館の写真を見せながら事故の概要や組曲に込めた思いを説明した。曲を流して「命の

大切さ、そして遺族の悲しみに時効はないことを知ってほしい」と話した。

授業を受けた千川真さん(18)は「曲を聴いて涙が止まらなかった。命の大切さを改めて感じた」と、須藤玲奈さん(18)は「事故のことは知らなかった。両親や身近な人を大切にしようと思った」と話していた。

混声合唱組曲は、事故で亡くなった客室乗務員の波多野京子さん(当時24)＝大学の大学時代の恩師、故・須藤久幸さんが教え子を失った悲しみをもとに書いた詞に田口さんが曲を付けた。



事故について説明する田口教授

田口さんは4月に本県勤務となり、今回の授業を企画した。